



# 上川井だより

令和5年8月31日  
横浜市立上川井小学校  
校長 山崎 真紀子

## 9月号

### 100年前の災害に学ぶ

今年の夏は、災害級の猛暑や台風に翻弄されました。予定していた帰省や旅行を断念された方もいるかもしれません。何より、被災された方々にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復興を願ってやみません。

台風や豪雨による風水害の他にも、備えなければならないのが大地震です。令和5年は、甚大な被害をもたらした関東大震災から100年にあたります。神奈川県西部を震源としたマグニチュード7.9の巨大地震です。ちょうど昼食の時間帯で多くの火災が発生し、被害が拡大したと言われています。また、津波や土砂災害も発生し、10万人を超える犠牲者が出たそうです。震災から復興後、さらに戦争による被害もあり、大地震に備える防災の日が制定されたのは、昭和35年、今から60年余り前になります。

一方、今後30年の間に70%の確率で首都直下型の大震災が発生すると言われています。その大きさは、マグニチュード7.3、死者は、最大で2万3千人、負傷者が最大12万人を超える被害が予想されています。本当に地震が発生したら、多くの被害が出るだけでなく、その後の生活にも大きく影響することが考えられます。関東大震災から100年の間、地震の研究や地震への備えに対する啓発、区画整理や河川の整備、簡易水道や備蓄品といった行政レベルの備えが進みました。それでも、地震発生を完全に予知することや地震そのものを食い止めることはできません。被害を最小限にとどめ、発災後も考えて準備しておくことが必要です。同時に、子どもたち自身も災害について考え、行動する姿勢を身に付けていかなければなりません。そのために、どんなことができるのでしょうか。

本校では、防災意識を高め大切な命を守れるように、9月には毎年防災総合訓練を行っています。この訓練は、大地震を想定した訓練です。今年度は、地域の方や保護者の皆さんと学校とが一体となって訓練を行います。

訓練は、地震発生直後に避難する「いつ避難所」を確認していただくところから始まります。その後、保護者の方には、お子さんを引き取っていただき、地域の方と一緒に訓練を行います。火災に備えた消火器訓練、煙体験、けがを負った人を助けるための毛布担架の作り方や三角巾を使った手当の仕方、AEDの使用訓練などです。訓練そのものも大切ですが、まず、自宅に近い避難場所を確認することや地域の方同士顔をかめ合って、共に行動することに意義があります。避難所開設やはまっこトイレの設置、炊き出し訓練なども行い、いざというときに備えます。実際に避難してみるとどんなことに困るのか、何があったら安心か、どこでどんな行動をとればよいのか、想像力を拡げて考えながら訓練し、いざというときに備えることが大切です。市が配布しているマイ・タイムラインという避難行動計画シートを活用するなど、この機会にご家族でも大地震や台風、大雨に備えた避難行動計画について話し合ってください。子どもたちが次の100年を安心して迎えることができるよう、しておくべきこと、できることについて考える機会にしていきたいと思います。